

第3問～第5問は、いずれか2問を選択し、解答しなさい。

第4問 (選択問題) (配点 20)

Oを原点とする座標空間に3点 $A(1, 0, 0)$, $B(0, 3, 0)$, $C(1, 1, \sqrt{2})$ がある。

$|\overrightarrow{OC}| = \boxed{\text{ア}}$, $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = \boxed{\text{イ}}$, $\overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OC} = \boxed{\text{ウ}}$, $\overrightarrow{OC} \cdot \overrightarrow{OA} = \boxed{\text{エ}}$ である。

四面体OABCの辺OBを2:1に内分する点をP, 辺OCの中点をQとする。PとQの座標はそれぞれ

$$P\left(0, \boxed{\text{オ}}, 0\right), Q\left(\frac{\boxed{\text{カ}}}{\boxed{\text{キ}}}, \frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{キ}}}, \frac{\sqrt{\boxed{\text{ケ}}}}{\boxed{\text{キ}}}\right)$$

である。また、三角形ABCの重心をGとすると、Gの座標は

$$\left(\frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}}, \frac{\boxed{\text{シ}}}{\boxed{\text{サ}}}, \frac{\sqrt{\boxed{\text{ス}}}}{\boxed{\text{サ}}}\right)$$

である。

(数学II・数学B 第4問は次ページに続く。)

直線 OG と平面 APQ の交点を T とする。点 T は直線 OG 上にあるから、実数 k を用いて $\vec{OT} = k\vec{OG}$ と表される。また、点 T は平面 APQ 上にあるから、実数 s, t を用いて $\vec{OT} = \vec{OA} + s\vec{AP} + t\vec{AQ}$ と表される。よって

$$k = \frac{\text{セ}}{\text{ソ}}, \quad s = \frac{\text{タ}}{\text{チ}}, \quad t = \frac{\text{ツ}}{\text{テ}}$$

である。このことから、三角形 ATP, 三角形 ATQ, 三角形 TPQ の面積比は

$$\boxed{\text{ト}} : \boxed{\text{ナ}} : \boxed{\text{ニ}}$$

である。

次に、 $AH \perp OG$ を満たすように点 H を直線 OG 上にとる。このとき、実数 ℓ を用いて $\vec{OH} = \ell\vec{OG}$ と表される。 $\vec{AH} \cdot \vec{OG} = \boxed{\text{ヌ}}$ であるから、 $\ell = \frac{\text{ネ}}{\text{ノハ}}$ であ

る。よって、四面体 OAPH の体積を V , 四面体 OABC の体積を W とすると

$$V = \frac{\boxed{\text{ヒ}}}{\boxed{\text{フヘ}}} W$$

が成り立つ。